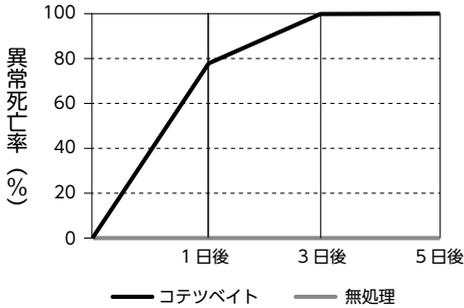


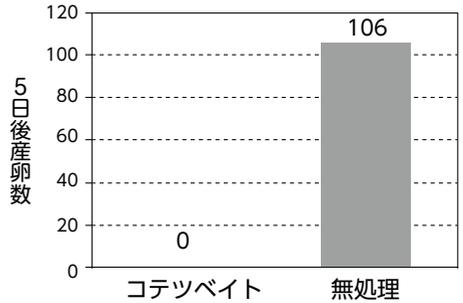
コテツベイト技術情報

コテツベイトの殺虫活性

死亡虫数調査



産卵数調査



試験実施：2013年 サンケイ化学株式会社

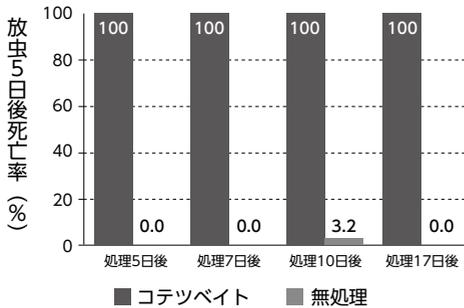
試験方法：・1.5mlのマイクロチューブ容器にベイト剤1粒を入れ、ケナガコナダニ10頭を放虫。3連制。

・経時的に死亡頭数と産卵数を調査。

・無処理区には有効成分を添加していない同処方の資材を処理。

供試害虫：ホウレンソウケナガコナダニ（奈良県個体群）

コテツベイトの残効性



2016年サンケイ化学社内試験

供試害虫：ホウレンソウケナガコナダニ（山口県個体群）

試験方法：施設ほうれんそう栽培圃場にベイト剤を処理し、薬剤散布5,7,10,17日後にベイト剤を圃場から回収（回収までの灌水は農家慣行）。回収したベイト剤1粒を1.5mlのマイクロチューブ容器に入れ、ケナガコナダニ10頭を放虫。3連制。無処理区には有効成分を添加していない同処方の資材を処理。

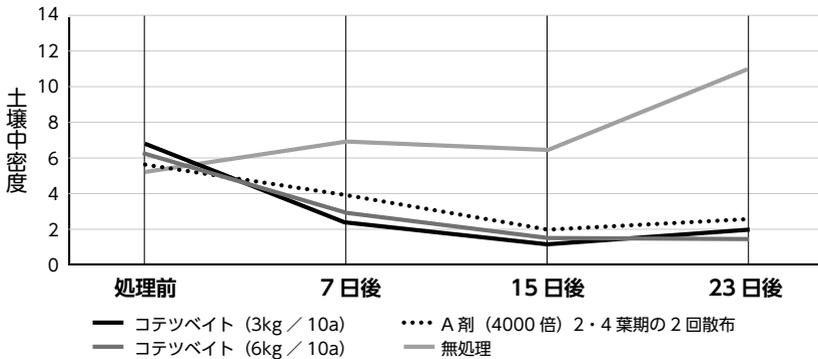
調査方法：放虫5日後に死亡数を調査。

薬剤散布17日後においても高い殺虫活性を保持していることを確認。

コテツベイト技術情報

ホウレンソウケナガコナダニに対する効果

2葉期散布



秋田県農業試験場 (2018年：秋田県秋田市 農試圃場内ハウス)

供試作物：ほれんそう (品種：サンホープセブン) 8m²/1区 (25株) 3反復

播種日：2018年8月30日

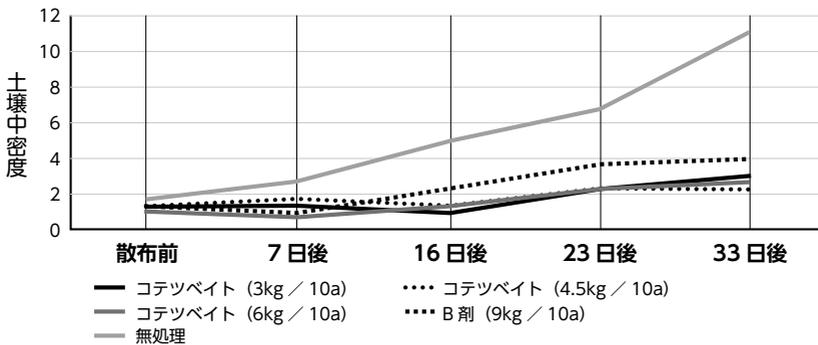
発生状況：少発生 (放虫)

処理日：コテツベイト (9月8日：2葉期1回全面土壌散布)

A剤4000倍 (9月8日 [2葉期]、9月15日 [4葉期] の2回散布、散布水量300L/10a)

調査日：散布前 (9月8日)、散布7日後 (9月15日)、散布15日後 (9月23日)、散布23日後 (10月1日)
コナダニの密度：酵母トラップ (春日方式) 4地点/1区

播種時に全面土壌散布



秋田県農業試験場 (2019年：秋田県秋田市 農試圃場内ハウス)

供試作物：ほれんそう (品種：ドンキー) 8m²/1区 (25株) 3反復

播種日：2018年8月23日

発生状況：少発生 (放虫)

処理日：コテツベイト (8月23日：播種時1回全面土壌散布)

B剤 (8月23日：播種時1回全面土壌混和)

調査日：散布前 (8月23日)、散布7日後 (8月30日)、散布15日後 (9月8日)、散布23日後 (9月15日)
コナダニの密度：酵母トラップ (春日方式) 4地点/1区

コテツベイト技術情報

ホウレンソウケナガコナダニに対する効果

播種4日後または2葉期に全面土壌散布



山口県農林総合技術センター（2018年：山口県周南市 生産圃場〔施設〕）

供試作物：ほれんそう(品種：トラッド7) 4㎡/1区(260株)3反復

播種日：2018年3月8日

発生状況：少発生

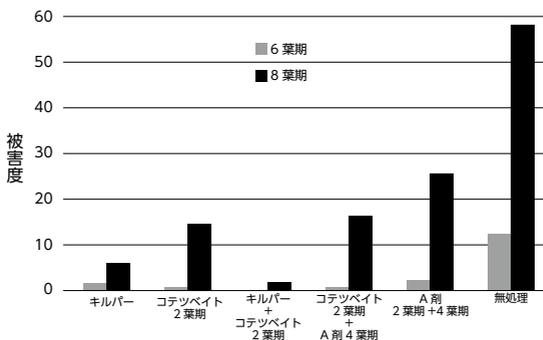
処理日：コテツベイト(3月12日：播種4日後全面土壌散布、3月22日：2葉期全面土壌散布 各1回処理)

A剤4000倍(3月22日、4月4日)の2回散布、散布水量300L/10a)

調査日：播種4日後散布・10日後、同17日後、同23日後、同30日後、同36日後。

上図10日後は2葉期散布、17日後は2葉期散布・7日後、23日後は2葉期散布・13日後、30日後は2葉期散布・20日後、36日後は2葉期散布・26日後であることを示す。

キルパーとの体系処理



山口県農林総合技術センター（2020年：山口県周南市 一般生産者ハウス）

供試作物：ほうれんそう(品種：ミラージュ)

ハウス1(キルパー区 247.5㎡/区 反復無し、キルパー+コテツベイト区 4㎡/区 4反復)

ハウス2(コテツベイト区、コテツベイト+A剤区、A剤2回処理区および無処理区、各16.5㎡/区 2反復)

播種日：2020年3月25日(ハウス2)、4月1日(ハウス1)

発生状況：中発生

処理日：3月17日(キルパー(ハウス1))、4月9日(コテツベイト、A剤(ハウス2))、4月16日(コテツベイト(ハウス1)、A剤(ハウス2))

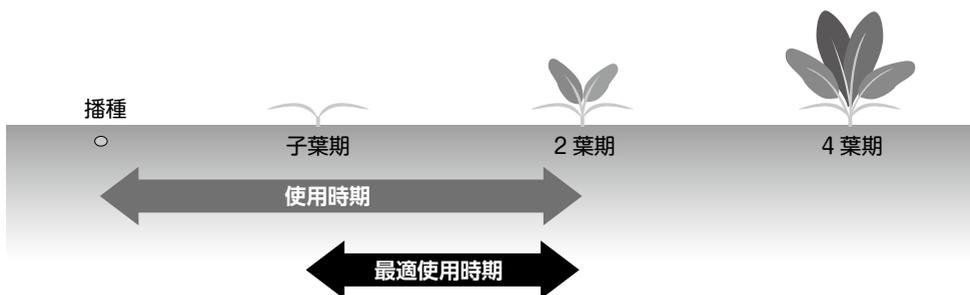
処理量：キルパー40ℓ/10a土壌表面散布、コテツベイト6kg/10a土壌表面散布、A剤4000倍 300ℓ/10a 土壌表面散布

調査日：4月23日(6葉期：ハウス2)、30日(6葉期：ハウス1)、30日(8葉期：ハウス2)、5月7日(8葉期：ハウス1)

コテツベイト技術情報

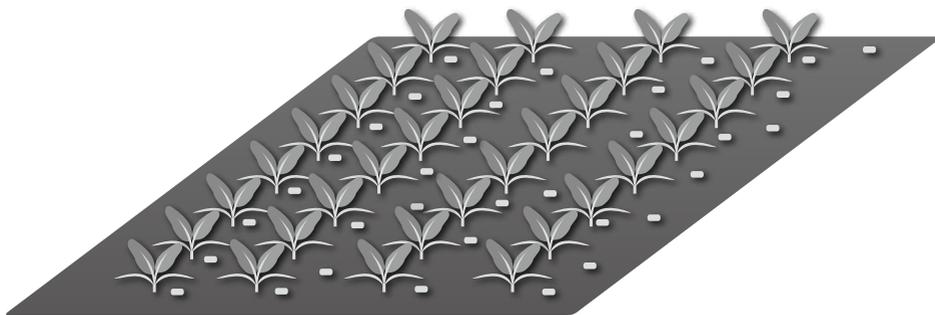
コテツベイトの上手な使い方

コテツベイトの使用時期としては、播種～本葉2葉展開期まで使用できます。但し、播種時処理も効果はありますが、ケナガコナダニの生態面より、最も効果が期待されるのは**子葉期～2葉期**の処理です。



登録上の使用量は3～6 kg /10a ですが、前作で被害が多発した圃場では効果の安定性から**6 kg /10a**の処理をおすすめします。

土壌表面に均一になるように散布してください。なお、作物の上から散布しても問題ありません。
土壌と混和しないでください。



施設栽培における灌水による効果への影響はほとんど認められませんので、通常通り灌水管理をして問題ありません。